

自家採種量の確保が難しいスイートピー「紅式部」の効率的採種法

採種が難しいスイートピー「紅式部」の採種法確立しました

背景・目的

総合農業試験場育成品種の「紅式部」は、通常の放任採種では着果が困難です。そのため栽培者の自家採種量が少なく、栽培面積が制限されています。ここでは種子量確保のための採種法を明らかにしました。

成果の内容

1. 「紅式部」は株ゆらしによる振動、及び筆による交配を行うことで着莢数が増加し、採種量が増加します。1株約10花房あたり種子数は放任採種が1粒未満、振動すると約6粒、交配を行うと約11粒で採種できます(表1)。

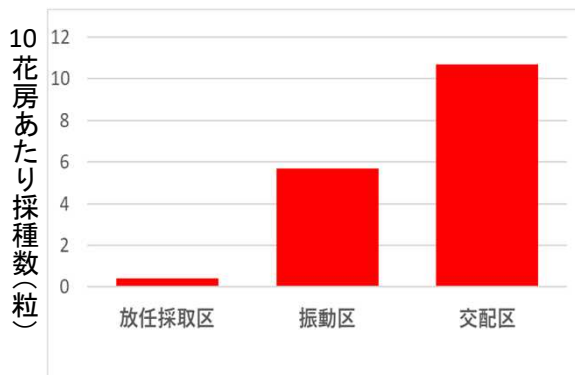


表1 採種処理による採種量の違い



図2 交配状況

交配は、筆を舟弁の付け根に差し込み、花卉先端に向けて筆を動かし、雌蕊の先端に花粉が付着するようにします。

成果の活用方法(又は期待される効果)

■ 希少品種として販売されていますが品種特性として採種量がきわめて少ないことが課題でしたが、この技術により種子の確保が期待されます。

■ 普及対象地域・面積 県内全域

留意点

- 普及対象は「紅式部」生産者、宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センターです。
- 採種作業は草勢を落とした後に開始します。
- 交配は、巻きひげや腋芽を摘除した株において、小花の開花の始まりから花卉の色がやや褪せ始めるステージまでの小花に毎日交配しました。
- 交配には、舟弁内に入る程度の筆を用いる。太い筆は太さを調整します。
- 交配は、筆を舟弁の付け根に差し込み、花卉先端に向けて筆を動かし、雌蕊の先端に花粉が付着するようにします(図1)。筆の動きを逆にすると雌蕊を折る場合があるので注意が必要です。
- 慣行の切り花栽培(種子冷蔵4週間後に9月播種)を行った後に調査したデータです。